

あかぬまびつちゅうだてあと
赤沼備中館跡

所在地 ^{とわだし おおあざあかぬまあざてらのうえ} 十和田市大字赤沼字寺ノ上

時代 ^{じょうもんじだい むろまちじだい えどじだい} 縄文時代、室町時代、江戸時代

出土遺物 ^{じょうもんどき せっき とうじき きんぞくせいひん} 縄文土器、石器、陶磁器、金属製品ほか

出土遺構 ^{どるい ほりあと ほったてばしらたてものあと みぞあと} 土塁、堀跡、掘立柱建物跡、溝跡ほか

報告書名 2002年 寺上遺跡・赤沼備中館跡(十和田市教育委員会)

解説

市街地の西約4km、^{おいらせがわさがん かがんだんきゅうじょう}奥入瀬川左岸の河岸段丘上にあります。武将赤沼備中の館跡の^{たてあと でんしやうち}伝承地であり、2001年に発掘調査がおこなわれました。赤沼備中は、^{なんぶし かしん かりう おくせあき}南部氏の家臣で、家老の奥瀬安芸との争いから^{てんぶん}天文八年(1539年)三戸城(聖寿寺館)を^{さんのへじょう しょうじゅじだて ほうか}放火したと伝えられています。赤沼地区には赤沼備中の墓と伝えられる^{ほうきやういんとう}宝篋印塔が残されています。

発掘調査では、^{どるい ほり くかく たてあと}土塁と堀で区画された館跡がみつかったほか、館跡の内部からは、^{すず いしかわけん せと あいちけん しがらき しがけん こくさんとうき}珠洲(石川県)・瀬戸(愛知県)・信楽(滋賀県)の国産陶器、^{せいじ はくじ ちゅうごくさん じき こうがい とうす てつなべ せんか}青磁、白磁などの中国産の磁器、筭、刀子、鉄鍋、銭貨などの金属製品が出土しています。



館跡発掘状況



陶磁器類